

病児保育奮闘記

(23)

子どもサポート H&K

大石 仁美

箱庭はやっぱり面白い！

こどもがなぜこんな事をするのか、その行動が理解できない時、何を考えて、何をしたいのか、またして欲しいのかさっぱりわからない、悪さをしたからといって叱ったり、教え諭したりしても、本当にわかってくれたのか、途方に暮れてしまうことも多いです。そんな時、箱庭をしてもらおうと、光が見えてくるから不思議です。

私は、分からないことは子どもに聴く、子どもから学ぶというスタンスで、今まで随分助けられて来ました。語彙の少ない子どもは、それに代わる不思議な能力を持っているということも教えられました。大人にはない能力です。

小さな砂庭に、玩具を並べるだけで、なぜこんなに鮮やかに心の内面を表現できるのか、子どもは、大人のように身構えたり、意図してやるということをし、自由にあるがままに、その世界に埋没するからこそ、心の埋もれた部分が浮き上がってくるのだらうと思います。

私は元会員さんで 現在中学生の不登校の子どもに、月一回のペースで箱庭づくりにきてもらっていました。「すっきりした！」「楽しかった！」

「また来たい」と言ってくれる度に、ホッとし、

いずれ自分の足でしっかり歩けるようになるその日まで、そっと見守ろう。そう思っているうちに2年が経ち、そして・・・ついにその時がやってきたのです。

3月に新型コロナウイルスの拡散防止策として政府から学校を休校にするよう要請があったことで、家庭の状況は一変しました。各々忙しくて、めったに顔をそろえることのなかった家族が、同じ時間をリビングで過ごすようになり、相手の動きが見えすぎて、些細なことから姉妹げんかの日々。『なんでこんなにイライラするのかー、ペースが乱されるっ』

行動規制で部活なし、塾もお稽古も休み。発表会も中止。一人で静かにしていたい時に、横で姉にクラリネットを吹かれたら、それも何時間も練習されたら堪らない。

ただでさえ落ち着かない季節。草木が芽吹きはじめ、あらゆる生き物が目覚めて動き始めるこの季節に、今まで何もしてこなかった、いやしくても動けなかった自分、イライラして八つ当たりしてしまう自分がある。そんな自分に嫌悪を感じているのに、この非日常がイライラをさらに増幅させるのです。

「イライラするのはエネルギーが湧いてきたから

かもしれないね。」「・・・そうかもしれない。」

彼女は箱庭で、不安と怖さを抱えながら、少しずつ動き始める自分を見事に表現してくれました。そして、「いままで出来なかったことをやってみたい。お友達が欲しい。いろんな話がしてみたい。怖いけどやってみる。」

そうして自分から終止符を打って旅立っていきました。春ですね♪心地良い風が吹きました。

今ここに彼女の箱庭を載せることは出来ませんが、面白いのを二点紹介したいと思います。これは身内ですので、どうぞ笑って見てやってください。

小学三年生の時の Y さんの箱庭

ここに登場する Y さんは三人兄弟の真ん中の子で、幼児の時は、周囲の大人たちから感心されることしきり。優しくよく気が付き、ママのお手伝いも進んでやるとてもいい子でした。

そのいい子が、小学生になったころから少しずつ変わってきて、三年生になるともう手の付けられない暴れん坊に変身したのです。

母親によると、「少しでも注意すると手が付けられなくなるのです。大声でわめき暴れて物を壊す。先日は風呂場の硝子をシャワーヘッドでたたき割りました。その前は外壁に石を打ち付けて穴を開けました。私も何度か蹴られました。もうお手上げです。制御できなくなるので、怖くて声もかかれない。泣けてきます。あの子をどこかで預かってほしい。自分には育てられない。限界です。」

うんうん、困った。学校ではお勉強も出来て、先生の信頼も厚いいい子らしいので、なにか原因がありそうです。それとなく子どもの話に耳を傾けてみると

「お母さんはいつも怒ってばかりで、話を聞こうとしない。怒らないで黙って欲しい。僕のはなしを聞いて欲しいんだ。お母さんは嫌いじゃないよ。ご飯を作ってくれるし洗濯もしてくれる。他にも色々してくれる。」

お父さんはどうなの？

「お父さんはほとんど家にいない。朝ごはんも夕ご飯も一緒に食べない。しごとが忙しいから帰りが遅いし、朝ごはんも食わずに仕事に行くよ。ほとんど会わないから好きでも嫌いでもない。」お休みの時は一緒に遊ばないの？「だって自分の部屋で寝てるし、入ったら怒られる。」

う～ん、それじゃ元気な男の子としてはストレスが溜まるわなあ。 **正面**



左側から写す



右側から写す

う～ん。かなり砂場が荒れています。

まず最初に、いきなり右側におおきな川を造ったのはびっくりしました。川と分かるように石と水鳥を置きました。さらに深い堀をつくり、その中にびっしりと大きな車を隙間なく並べました。次に大きなキリンを対立した位置に三頭置き、一頭の頭に小さなテラノサウルスを載せました。「ニワトリに餌をやっている女の子を襲おうとキリンの頭に乗ったんだ」と話したあと、しばらくして「止めた！」と言ってキリンとテラノサウルスを取り除き、あとの二頭のキリンは仲良く並べて置きなおしました。(母親への敵意?でも自制力あるみたい)

中ほどにある青い建物はスーパーマーケット兼レストラン。緑の丸い机の前で、母親と並んで長椅子に座り、順番待ちをしているそうです。写真ではよくわかりませんが、近くに兄と弟もいるようですが父親はいません。

彼は本当に、静かに自分に寄り添ってくれる母親を求めているということがよくわかります。そんな彼がいじらしくなりました。

母親は、育児に無関心な父親に対しての腹立ちから、イライラを募らせているのでしょうか。

Yくんは、2歳上の兄にはかなわない。好きなことには夢中になってのめり込んでしまう兄は、竜王戦の一般の部で準優勝。卓球は小学生大会で優勝。ギターはクラシックだけど、気分転換にはジャズピアノを楽しんでいる兄。大人たちが「すごい、すごい！」と褒めるので、自分も兄のようになりたいと、同じように習い事に通うけれど、すべて挫折。何をやっても続かない根気のない子だと烙印を押されて、劣等感だけが残ってしまったようなのです。(兄は発達障害といわれていて、学校の勉強は出来ません。)

弟の方は、3歳からクラシックバレエを習い始め、「可愛い！」と女の子たちのアイドルで、母親も猫かわいがりするものだから、Y君としては、いい子でいる以外居場所がなかったのでしょうか。

でも、もう限界！ 我慢が爆発したようです。

なにか好きなこと見つかったの？

「全然！ 根気がないから。将棋は勝てないし、卓球も習いに行ってるけど、兄ちゃんみたいになれないし、サッカーもやめちゃったし、学校の先生が、絵が上手いと褒めてくれたので、絵も習いに行ったけど、やめちゃった。根気がないから。嫌いじゃないけど。」

いろいろやってみただねえ。すごい！で、何をやっても続かないって。続かなくていいのよ。探してる、そういう時期だから。そのうち好きなことがみつかるよ。それまでやりたいと思ったことはなんだったってやったらいいと思うよ。ママに言っというてあげる。そんなに早く見つかる方が無理だって。

それから一つ聞いていいかな。堀の中に車が一杯並んでいるけど、先は行き止まりだし、これじゃ糞詰まりで、身動きできないね。どうする?「う～ん、大丈夫! エンジンふかしてババババ～ンと乗り越える!!」へえーっそんなことできるの?「出来るよ!!」

本当は、行き詰っていてしんどいはず。でも実に大きなエネルギーを内に秘めているんだと、ちょっと感動した瞬間でした。

ママにはアドバイスというより忠告をしました。この子の芽を摘まないように! 些細なことでも褒める、ほめる・・・他人の前でこの子の悪口を言わないこと! それから、この子に求めるより、場面によってママが、ごめんなさい、ありがとうを言わなきゃ。当たり前だけど。

小学三年生になったTくんの箱庭

兄のYくんの反抗の波が、小さくなったり大きくなったりしながら、少しずつ収まってきたころ、末っ子のTくんの我儘ぶりが目に余るようになって

てきました。もともと甘やかしすぎで、声掛けの声まで他の子と違うのですから、バカバカしい、指摘してもママは認めないので、どうしてもありません。いずれ手に負えなくなるに違いないと思っていたら、案の定「今日は学校に行きたくない」とズル休みしてゲーム三昧。無理やり車に乗せて連れて行っても、逃げ帰る始末。ルールを作っても納得したようにみせかけて、すぐルール破り。気に入らないと、大声で泣き叫び、暴れまわるので、手の付けようがありません。つまずいた時はそこに石があるのが悪いという論理。自分は悪くないのです。以前からこの子と母親との関係を苦々しく見ていたので、ざまーみろと捨て置きました。ところがある日、本人から「僕も箱庭したい！」と言ってきたのです。ん？と思いましたが、しぶしぶ時間をとることにしました。



Tくんは夢中になって箱庭を作りました。向こうには怪獣が暴れています。家や門、トラッ

ク等をなぎ倒し、大暴れ。人々は少しでも遠くに逃げようと必死になっています。全速力で自転車で走る人、船に乗って逃げようとする人もいます。でもなぜか家の陰で静かに座っている人が……ん？それに右端にはこんもりと高い丘？があり、大仏様がこれらの様子を静かに眺めています。これはなんだろう？なにを意味するのだろう？？本人に聞いてみることにしました。Yくんはこの中にいるの？

「いるよ。この家の影に座って隠れているこの人だよ。」えっ？まったく意外な答えです。

この怪獣がTくんじゃないの？「うん、そういうときもあるけど……」なかなか正直です。

その時はっとひらめきました。この怪獣は兄かもしれない、いや、もしかしたら母親ではないか。そして、静かに眺めている大仏様は、彼が描いている理想の母親にちがいない。

そう思うと妙に納得して笑えてきました。

子育てで、理想的と思える対応をしていたとしても、真っ直ぐに子どもが伸びるとは限らないのが現実です。ハチャメチャでも、いや、怒ったり、泣いたり、時に暴力をふるうことがあっても、真剣に向き合うことを止めさえしなければ、それなりに子どもは育つものだなあと考えたことでした。ちょっと安心。

やっぱり箱庭は面白い！